Computational Molecular Spectroscopy: BrCN⁺

(產総研·計算科学¹; 広島大理²; Buppertal Univ., Germany³; 九州大学理⁴)

〇平野 恒夫^{1,2}, 長嶋 雲兵¹, Per Jensen³, 中嶋 吉弘⁴, 田中 桂一⁴

未知分子の理論的予測、実験サイドへの相補的な示唆などのために、高精度な*ab initio*分子軌道法による理論計算は重要である。 我々は既に、電子相関を考慮した高精度な分子軌道法によって、MgNC/MgCN、NCS、FeC、FeS、FeN、FeCO、FeCN/FeNC、CoCO、CoCN等について、分光学精度の予測を行ってきた。¹⁾

既に、第4回分子分光研究会²⁾および 59th International Symposium on Molecular Spectroscopy³⁾、分子 構造総合討論会 2004⁴⁾、2005⁵⁾ などで指摘したように、FeNC、CoCN、NiCNに関して、実験から求められた CN結合の結合距離₆(CN) は、表 1 に示すように短すぎ Table 1 CN Bond length (Unit. Å)

一方、我々のMR-SDCI+Q+*E*_{rel}レベルの*ab initio*分子軌
 道法による計算値(*r*_e)は、表 1 に示すように、ほぼ通常のCN結合に期待される妥当な値になっていて、その値はNi、Co、Feの順で長くなっている。この傾向は、金属-CN

Table 1	CN Bond length (Unit, Å)		
	FeNC	CoCN	NiCN
Exp.(<i>r</i> ₀)	1.03(8) ⁵⁾	1.1313 ⁶⁾	1.159 ^{7,8)}
<i>ab Initio</i> (<i>r</i> _e) calc. by us	1.182	1.171	1.166
Difference	-0.15	-0.04	-0.007

(またはNC) 結合に期待されるイオン性を反映して長くなっているものと見て取れる。 金属-CN (またはNC) 結合のイオン性に関しては、金属原子からCN/NC基に流れ込んだ電子はCN/NC基の反結合性のσ* 軌道 に入ることを考えると、その結合距離が長いほどイオン性が高いことを意味する。 表 1 をみると、計算値は 確かにそうなっているが、驚くべきことに実験値は全く逆の傾向になっている。

これらの分子は、第 1 列遷移金属原子を含むラジカルであるが、遷移金属原子を含まず、かつ重い元素 を含むイオン性のラジカルでも、同様な現象が期待

される。最近、BrCN⁺に関して中嶋らによってFT Emission Spectrumが観測され⁹、従来の分光学的 取り扱いでは f_0 = 1.103(78) Åとなるが、 第1列遷 移金属原子-CN/NCラジカルで見られるような大振 幅変角振動をしていることに基づく見かけの値であ る可能性があり、*ab initio*分子軌道法による検討が 望まれた。

計算はRenner縮退している²П(変角による C_s 構 造では、1²A'と1²A'')、および C_s 構造でmixingが 予想される 1²Σ (C_s では 2²A')の 3 statesを averageしたSA-MCSCF軌道をもとに、多配置の SDCI+Q計算を行って 3 次元ポテンシャルエネルギ 一曲面(PES)を求めた。基底関数としては、Brには de JongらのVQZ-DK ((21s16p12d2f1g) /[7s6p4d2f1g])を、CとNにはcc-pVQZを用いた。



る。

MR-SDCI+Qのactive spaceは、Brの 4sと4p、およびC, Nの2s, 2pとした。Br を含む分子なので、2次の Douglas-Kroll法(DK)で相対論的効果 を取り込んだ。

まず、エネルギー準位の関係を明ら かにするため、MR-RS2 の計算を行っ てみた。 図 1 にその結果を示す。 BeCN⁺の基底状態は²Пであり、その平 衡構造は直線型である。遷移構造TS (結合角Br-C-N = 78°)のすぐ手前 で1²A'と2²A'のavoided crossingが 起こり、1²A'と2²A'の性格が入れ替 わることが分かる。

次に、3次元PESを求めて、Millsの 2次の摂動論によって分子定数を求め た(表 2)。実験との比較は今のところ 必ずしもよいとはいえないが、回転定 数*B*₀(誤差 -0.7%)や遠心力歪定数な ど、まあまあの一致がみられる。一方、 C-N結合距離に関しては、計算値 1.1984 cm⁻¹(*r*_e)に対して、実験値 1.103(78) cm⁻¹(*r*_o)は短すぎることが分 かる。変角振動の力の定数の計算値 0.192 aJ⁻¹は、大振幅変角振動の取り 扱いが不適切なため「短すぎる *r*₀(C-N)」が問題とされているCoCNや NiCNなどでの計算値、それぞれ 0.151, 0.170 aJ⁻¹、並みの大きさなので、確か

Table 2Molecular constants^a of $BrCN^+$ calculated fromthe 3-dimensional PES, obtained by the MR-SDCI+Q+ $E_{rel}(DK)$ /[VQZ-DK (Br), aug-cc-VQZ(C,N)]

	Calc.	Exp ⁹⁾		
<i>r</i> ₅(Br−C) /Å	1.7332	1.788(54) (<i>r</i> ₀)		
r₅(N−C) /Å	1.1984	1.103(78) (<i>r</i> ₀)		
<i>a</i> ₅(Br−C−N)/deg	180.0	180.0		
B_{e}/cm^{-1}	0.14056			
B_0/cm^{-1}	0.14053	0.141505(32)		
<i>E</i> _e /Eh -2696.81852786				
$D_{ m J}$ * 10 ⁸ /cm ⁻¹	2.66	3.07(17)		
α_1 /cm ⁻¹	0.00074			
$lpha_2$ /cm ⁻¹	-0.00060			
α_3 /cm ⁻¹	0.00051			
$\omega_1(NC)/cm^{-1}$	1910			
$\omega_2(\text{Br-C-N})/\text{cm}^{-1}$	268	287.24		
ω_3 (Br-C)/cm ⁻¹	636			
$\omega_{e} x_{e}(11)/cm^{-1}$	-0.3			
$\omega_{\rm e} x_{\rm e}(22)/{\rm cm}^{-1}$	-3.4			
$\omega_{\rm e} x_{\rm e}(33)/{\rm cm}^{-1}$	-3.4			
$\omega_{\rm e} x_{\rm e}(12)/{\rm cm}^{-1}$	-2.0			
$\omega_{\rm e} x_{\rm e}(13)/{\rm cm}^{-1}$	-43.0			
$\omega_{\rm e} x_{\rm e}(23)/{\rm cm}^{-1}$	17.4			
<i>g</i> ₂₂ /cm ⁻¹	4.3			
v_1/cm^{-1}	1886	1905.94 [⊾]		
v_2/cm^{-1}	270	287.2°		
v_3/cm^{-1}	625	649.4°		
Zero-Point <i>E.</i> /cm ⁻¹	1533			
$\zeta_{12}/ ext{cm}^{-1}$	-0.98			
$\zeta_{23}/\mathrm{cm}^{-1}$	-0.20			
$\Lambda extsf{-doubling/cm}^{-1}$	0.00016			
Renner ϵ/cm^{-1}	0.178	-0.185229(27)		

^a ω_i : harmonic frequency; v_i : anharmonic frequencies; $\omega_e x_e$ and g_{22} : anharmonicity constants; α_i : rotation-vibration interaction constants; ζ_{ij} : Coriolis coupling constants. ^b Salud, *et al.* 1993 ^c Fulara, Klapstein, *et al.* 1985

に大振幅変角振動を行っており、ここでも第 1 列遷移金属-CN/NCの場合と同様なことが起こっているものと 想像される。なお、Rössleinら¹⁰⁾ が実験から求めた r_s (Br-C) = 1.745(7) Å, r_s (C-N) = 1.195(8) Åは、ここでの 計算値 r_s (Br-C)、 r_s (Br-C)と近い値になっている。

目下、変分法による MORBID や RENNER プログラムによる解析を実行中である。

¹平野、糸野、小鷹、長嶋ら、*分子構造総合討論会 2003*、講演要旨集, 4Bp04 (2003). ²平野、奥田、長嶋、*第4 回分子分光研究会* (2004) 岡山. ³ T. Hirano, R. Fukui, and U. Nagashima, 59th International Symposium on Molecular Spectroscopy, RF05, Columbus, Ohio (2004). ⁴ 平野、奥田、長嶋、*分子構造総合討論会 2004*、3C09. ⁵ J. Lie and P. J. Dagdigian, J. Chem. Phys., **114**, 2137 (2001). ⁶ P.M. Sheridan, M. Flory, and L.M. Ziurys, J. Chem. Phys., **121**, 8360 (2004). ⁷ C.T. Kingston, A.J. Merer, and T.D. Varberg, J. Mol. Spectr., **215**, 106 (2002). ⁸ P.M. Sheridan and L.M. Ziurys, J. Chem. Phys., **121**, 8360 (2004). ⁹ Y. Nakashima, T. Ogawa, M. Matsuo, and K. Tanaka, 60th International Symposium on Molecular Spectroscopy, MG12, Columbus, Ohio, 2005. ¹⁰ M. Rösslein, M.A. Hanratty, J. P. Maier, Mol. Phys., **68**, 823 (1989).